

カリタス

障害者・高齢者福祉サービス

報告者：諸岡 美津

1. 概要

- カリタスは、2014年にオープンした障害者・高齢者対象の民間福祉施設。
- 入居者のニーズに合わせた高品質なサービスを提供、入居者は24時間体制でスタッフサービスを受けることが可能となっている。

2. 説明者

ニーナ ハイニネン 氏



Ms Nina Hynninen

3. 主な説明内容

カリタスは北フィンランド・オウル市ロバニアに設置されているフィンランドの会社である。

オウル市には大きなサービスセンターが3か所、ここのような中くらいのサービスセン

ターが 15 か所あり、高齢者、障がい者ケアを行っており、中には小さな病院があり、医師もいる。

カリタスはコミュニティ全体を考えて行動している。

サービス法人は、協力して顧客に合ったサービスを行い、ここで得た利益はまた、障がい者の為、福祉に役立つように還元している。

カリタスは財団とサービスとで構成されている。

サービスはチャリティの貢献度が高く、500 人のスタッフと 100 人のボランティアメンバーが、人生の質を高めるために、顧客の段階やニーズに応じて健康サービスを提供している。高齢者や障がい者が在宅で生活できるよう意義のある生活ができるよう必要に応じたサービスを提供している。

カリタスのすべての活動はチャリティであり、倫理を持ち社会の為に、役立てるよう取組んでいる。

この分野でパイオニアとなることで、新しい福祉サービス、先進的な取組を提供することができる。利益が目的ではなくコミュニティの役に立つ、高齢者等の暮らしのレベルをあげることができる。この分野に進出している他の相手は大企業が多い。

カリタスは小規模な会社であるが変化に対応し顧客の要求に応じてフレキシブルにサービスできる。自宅で長く住めるよう、最新の IT 技術も駆使し快適な暮らしの提供をする。

アジアでは高齢者は子どもの世話になることが多いが、フィンランドでは一人暮らしか夫婦だけで住む習慣がある。共働きをしていて介護ができない。職場が遠くて親の世話ができずに、アパートでサービスを受けたりサービスセンターに住む場合が増えている。

宗教的な部分としては 1998 年ルテル教会ファンデーションと合同で立上げた。NPO として仕事を運営し、暮らしのレベルを上げるサービスを行っているが、その行動は、キリスト教の考え方に裏打ちされている。

カリタスサービスは知的等様々な障がいについても提供しており、ホームケア、在宅、ヘルプ、そうじ、レストランもある。



4. 主な質疑

○ ボランティアは、どういう方か。

→ 年齢は 1 歳～93 歳。もちろん 1 歳児はお母さんと一緒だが、様々な状況の方がおられる。学生、仕事を終えてからかけつけて下さる方、退職した方の多くは自分の趣味を提供されているが、決まった形ではなく、各々が自分のペースで友人になり、一対

一でのボランティアもあればグループでのボランティアもある。オーケストラが無料演奏して下さることもある。

教会の方であるということは、条件ではないが、そういった理念を持っておられる方が多い。



地域の人も利用できる食堂もあり開放的な施設

- 日本では介護士の給与水準が低く、介護士不足という現状があるが、フィンランドの状況についてはどうか？

→ フィンランドでも、基本的には給与は低い。しかし介護士は魅力ある職業として、認識され、十分足りている。看護師もそうである。またフィンランドではお金より、仕事がしやすい環境も、重視される。

- 運営費用について

→ 昨年の売り上げは2千万ユーロである。老人介護サービスは68%、障がい者サービスは23%。自治体や国からも収入があり、運営できる。

- カリタスでは高齢者と障がい者を、同じ場所でサービスされているが、他の企業も同様のサービスをしているのか。

→ カリタス独自のサービスである。

5. 所感

オウル市のカリタスは、カリタスの色で施設を明るくコーディネートされ、光がたっぷり入る大きな窓や、地域の方も利用できる食堂、サウナ等も設置されていました。

各フロアの真ん中には、共同でリハビリや作業、テレビが見られる大きなリビングがあり、個室の部分とバリアフリーで、つながっ



ています。

一階は認知者の人や重度の障がいがある方が多かったが、そういった施設に、こもりがちな臭いもなく、清潔を保てるよう介護士の方が努力をされていることが見受けられました。また、「この施設は最高です」と言われる施設利用者も多く、ボランティアの皆さんも、家族のように接しておられるのが印象的で、この施設に入りたいと言われる希望者が多いというのも、納得できました。

カリタスの説明の中で、何度も「利益は全部、社会福祉に還元します」「介護士や看護師、教師等、社会に役立つ職業は給与は高くないけれど、尊敬される仕事です」と、目を輝かせて語られる姿に、心打たれました。

経済構造等が大きく違うフィンランドと日本を同列にして語ることはできませんが、どこの国でも社会の為に役に立ちたいとの理念が、大きな仕事につながることに感銘を受けました。